子育てとは感性を育てること

須永　進 氏
（すなが　すすむ）
藤女子大学人間生活学部保育学科教授。保育者養成の大学で保育者論、家族援助論などを教授する一方、子育て支援活動の一環として構内で展開する「お手てつないで」では、親と子の交流の場を提供するなど、臨床研究および実践活動に従事。

2003年夏、藤女子大学人間生活学部の須永進教授は日本と韓国で興味深い調査を行いました。両国の子育て観を比較・研究するもので、違いが目立ったのは「子育ては楽しいかどうか」という質問。「楽しい」という回答が多かったのは韓国の方でした。その社会的背景を須永教授は「韓国には周囲に相談できる人的環境がまだあり、楽しいと答える要因の一つになっているのでしょう」と分析します。

子育ての意義についても日韓では異なりました。韓国では半数以上が「家族の結びつきを強める」のに対し、日本では「子どもを育てることで自分が成長」するという回答が最も多かったのです。この結果は日本の子育てが欧米のように、より個人主義的なものであることを浮き彫りにしました。

「しかし」と、須永教授はここで次の点を強調しました。「洋の東西を問わず、子育てが人と人とのつながりの中で行われることには、やはり変わりないのです」と。

だから、子どもが培うべきものは、自分の意思を伝える力。個人主義といわれる欧米では特に大切とされるものです。「しかも、言葉で伝える訓練です。暴力に頼れば、いつか不幸な負の連鎖を招きますから」と、須永教授は続けます。「ところで、私は子育てで最も大切なことは感性を育てることだと思うのです。そして、この感性こそ、他者への意思伝達の繰り返しの中で初めて養われるものだと思っています」

＊　＊　＊

これまで市では子育て支援対策として、延長保育や夜間保育、病後時保育といった保育サービスの拡充に努めてきました。しかし、最近の子どもたちをめぐる環境について田岡市長は「親とのスキンシップが絶対的に不足している。これからは子どもの側に立った見方も必要なのだと痛感しました」と憂慮を口にします。

次世代育成で何より大切にしたいのは「子どもたちの"挑戦力"を養うこと。人間本来の"生命力"を養うこと」と言います。

「子どもたちの健やかな成長を願うとき、私たち大人は何をすればよいでしょうか。私は、その一つが子どもたちの創造性を伸ばすことだと思います。それにはまず、子どもたちに挑戦の場を与えなければ。木に登って落ちたら危ない。それも事実ですが、木に登ることは楽しい。これもまた事実です。そういうことをぜひとも、人生の先輩である、経験豊かな市民の皆さんとともに、子どもたちに伝えていければと切にお願いします」と、地域全体での子育てを願っています。

＊　＊　＊

広報では、子どもに対する市の新たな取り組みや地域の方々の活動を今後、特集で紹介します。

【今後の特集テーマ（予定）】

- **「子どもの安心・安全」**
- **「子どもの居場所」**
- **「子どもの食・読書」**
- **「子どもの障がい」**

平成18年度　石狩市の新規子育て支援事業〈抜粋〉

●町のはらっぱ事業

はらっぱ（市有地）を利用し、子どもたちが自由な発想で考え、体を使って遊ぶことで健やかに成長していける環境を整えることを目的とします。

参加者大募集！

6月3日（土）9:00～16:00
「みんなでつくろう！ガラクタひみつきち」

子どもたちがイメージした秘密基地を、廃材などを使ってつくり上げます。

対象　小学4～6年生／30人
場所　石狩消防署横市有地（花川北1-1）
申込・問合せ　子育て支援課　☎72-3631

●いしかり子ども総合支援会議

保育・教育の専門家から子育て支援団体、一般公募の方など、さまざまな分野の人で構成される組織。平成17年にまとめられた「石狩市次世代育成支援行動計画」（10カ年計画）の進ちょく状況をチェックするものとして、子ども支援のあり方や施策・事業などを討議します。

●子どもの食育推進事業

家庭に「食」についての正しい知識と、望ましい食習慣を幼児期から身に付けてもらい、子どもや家庭の心身の健康づくりを支援します。

●こども見守りネットワーク協議会

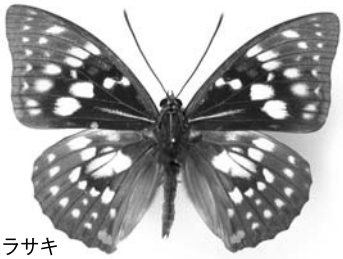
学校・幼稚園・保育園・医療機関・そのほか児童を預かる事業所と行政が連携し、児童虐待やいじめ・不登校などさまざまな問題解決を目指し、協議します。

●いしかり子育てネット事業

地域の育児サークルや支援団体などが集まって、情報ネットワークを築くとともに、子育てガイドブックやカレンダー、情報誌の作成などを通して、子育て家庭を応援します。

いしかり博物誌 77

国蝶オオムラサキが棲む森



オオムラサキ

©北海道開拓記念館

オオムラサキは日本の国蝶です。鱗翅目タテハチョウ科で、ムラサキ色の翅を持ち、翅を広げると8～9cmにもなる大きなチョウです。本州では、雑木林の樹液にカブトムシやクワガタムシとともに集まる虫としても知られています。

しかし、北海道では分布域は南西部に限られ、北海道レッドデータリスト（絶滅の恐れのある動植物リスト）にも挙げられている、希少なチョウです。

このオオムラサキが、浜益区実田地区の森で暮らしています。なぜ、実田にオオムラサキが暮らすのでしょうか？　その答えは、オオムラサキの幼虫が葉を食べる植物と関係があります。

オオムラサキの幼虫は、エゾエノキ（本州ではエノキ）という木の葉だけを食べます。エゾエノキが生育していない森には、オオムラサキはいません。

オオムラサキは、幼虫の姿で木の下の落ち葉に身を隠して冬を越します。ですから、いくらエノキの木があっても、落ち葉をきれいに掃いてしまったり、木の下をコンクリートで固めてしまったりすると、オオムラサキは暮らしていけません。

実田には、エゾエノキが生育する、自然のままに残された森があるのです。

多くの文献では、エゾエノキの分布は石狩低地帯以南といわれています。実田の森は、エゾエノキが隔離分布する場所で、分布の北限でもあるのです。それではなぜ石狩低地帯から80kmも北にエゾエノキは生育できるのでしょうか？　恐らく暖流対馬海流の影響を受けた、浜益地域の比較的温暖な気候に理由があるのではないかと思われます。

しかし、実田のオオムラサキ、数は非常に少なく、森を舞う姿をなかなか目にすることはできないようです。北限のオオムラサキがいつまでも暮らしていけるよう、チョウも森も大切にしていきましょう。

（内藤華子）

エゾエノキ（ニレ科）
山すそに生える落葉樹で、高さ20m。
10月に青黒色の実をつけます。

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 TEL62-3711
✉i-museum@bz01.plala.or.jp
■石狩浜海浜植物保護センター TEL72-3240
✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp